HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	指示詞「こ」「そ」「あ」の学習プランについて
Author(s)	熊谷, 正志
Citation	教授学の探究, 19, 139-160
Issue Date	2002-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/13633
Type	departmental bulletin paper
File Information	19_p139-160.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

指示詞「こ」「そ」「あ」の学習プランについて

熊　谷　正　志
（北海道月形高等学校）

1　問題意識の所在

(1)　高校生の文章表現能力をどのようにとらえるか

平成15年度から高等学校においても，新学習指導要領が施行されるにあたり，子どもたちの学力（この場合学力を読み書き計算の力と仮定する）がますます低下するのではないかという懸念が各方面で指摘されている。学力低下論争と学習内容の厳選や総合的な学習の時間の設置等についての分析はここでは述べないが，私自身が高校の国語教員を14年間勤めてきて，私なりに生徒の文章表現能力の問題を拾ってみると，

① 漢字を知らない。
② 句読点，かぎかっこの使い方を知らない。
③ 話題の進め方と改行に整合性がない。
④ だ・である体とです・ます体の混用
⑤ 書く動機付け（気力？考える力？）が希薄
⑥ 何を話題にしているのかこんがらがってしまう

上記の問題はかなり以前から，しかも月形高校の生徒だけでなく，全国的な徴候であるような気がする。そこで，私は微視的に言えば，目の前にいる月形高校の生徒の文章表現能力をいかに向上させていくか，巨視的に言えば，あらゆる生徒に通用しうる，日本語をじっくり見つめ理解し，しかも豊かな使い手となれる学習プランをどのように形成していくかをテーマにこのレポートを進めていく。

(2)　指示表現に着目した理由

たとえば指示表現というと，〝傍線を引いた「その」の指す内容を答えなさい〟といった設問が思い出される。前の部分をもう一度読み直すためには(深く読み進めるために)，意味のある設問ではあるが，生徒が投げてしまうことになりかねないという懸念がある設問でもある。ただ市川孝氏『国語教育のための文章論概説』(教育出版　1978) では，次のような指摘がなされていたことに私は注目した。

① 実際の文脈は，いろいろな（文をつなぐ）形式が，さまざまに併用されて展開する。これらの形式の用いられ方の少ない文脈は，ややもすると，つながり方の明確さを欠くものとなっている。
② 一般に，指示語の多い表現は，文脈への依存度の高い表現であると言える。指示語を適

切に用いれば，叙述がひきしまり，明快で筋の通った文脈が生まれる。あるいはまた，陰影と流動性を帯びた文脈が形作られる。けれども，指示語を無反省に，また，あいまいに用いると，かえって，不明確な，あるいは，冗文的な文脈が出来上がるおそれがある。

そこで，私は，高校生に文章を構築させていくために役立つ側面としての指示表現を，興味深くとらえてもらい，その側面を効果的に使用できるようにさせていくことを大まかな目標とした学習プランを作成し，「こ」「そ」「あ」の指示語について，最近の日本語学で明らかにされていることを問題化して提示し，問題を読み解くことによって「こ」「そ」「あ」の認識形成を図るプラン作りを具体的に目指すこととした。

(3) どのような内容を，どのような順序で学習させるのか

① 指示詞を扱うことの意義は上記の市川孝氏の指摘とともに次の林四郎氏の指摘も示唆に富んでいる。(「代名詞が指すもの，その指し方」『朝倉日本語新講座5　運用Ⅰ』1983より)

〝指示詞の研究は，もし，それが何を指すかということに限るならば，言語研究の中にそれほど大きな領域を占めることはないだろう。ところが，指示語が何かを指すときには，方向指示器が方向を指すのと違って，表現者の頭の中でのいろいろな操作が行われ，その操作までが受け手の頭や心に伝わってくるということがある。この操作のいろいろな姿を見ていると，それが，言語表現の根本原理に触れて来ることばかりで，この現象を的確にとらえることは言語研究の中の非常に大事な部分を占めることだと感じられて来る。〟すなわち表現者（以下では「話し手」と呼ぶ）がどういう領域にいるかと認識するかによって「こ」「そ」「あ」が使用されるかということなのであり，学習者である高校生が「こ」「そ」「あ」をどのように使用されるかを理解し，意識的に使用することは，文章表現能力を向上させるためのひとつの方策だと考えられるのである。

② 指示詞のどの部分を学習させていくかについては，金水敏・木村英樹・田窪行則三氏の共著である『日本語文法セルフマスターシリーズ4　指示詞』(くろしお出版　1989)をベースにし，できるだけ興味深く学習を進めることができるようなプランを用意した。

導入は「現場指示」（指示対象が五感で認識可能な場合の指示）から行い，そこで「こ」「そ」「あ」の使われ方に何か法則性があるということに気づかせ，「文脈指示」（指示対象が言語的文脈の中に存在する場合の指示）へスムーズに進むという手順がうまく構築できるように工夫をする。

このプランで強調したいことは「こ」「そ」「あ」の使用は，話し手・聞き手がどういう位置にあり，指し示す対象がどこにあるかということと深く関連していることを理解してほしいということである。また，現場指示だけでなく，文章が展開していく中で，「こ」「そ」「あ」がどういう内容を先行文脈（後続文脈）から持ち込んでいるかを理解することは，極端にいえば，日本語をいかに上手に運用していくかと深くかかわるのであるから，私はこの指示詞の学習プランで「こ」「そ」「あ」がどういうものであるかということを現場指示で理解させることからはじまり，次に日常なにげなく使っている方向や場所・対比でその用法を確認し，つづいて文脈の中で「こ」「そ」「あ」がいかなる時にいかなる使われ方がされるかということをさぐることによって，理解を深めていくようにしむけていく。最終的には文脈指示の中で，指示詞はこういうふうに使用されるのだということが意識されるような形になるようにプランを作成してみた。

(4) 『日本語文法セルフマスターシリーズ4　指示詞』から何を取り入れ，何を乗り越えようとして学習プランを作成したのか

まずは，学習プラン作成にあたって，参考にしたというより全面的に依拠した「日本語セルフマスターシリーズ4　指示詞」の学習内容を次に示す。なお，太字の部分が取り入れた内容である。

1 「これをください」「あれはなんですか」〈現場指示Ⅰ〉
2 「この魚はなんといいますか」〈現場指示Ⅱ〉
3 「これはだれですか」「それは田中さんです」〈現場指示Ⅲ〉
4 「そこにいてください」「ここでいいですか」〈場所Ⅰ〉
5 「ここは，このあたりで一番おいしい蕎麦屋です」〈場所Ⅱ〉
6 「説明しますから，こっちを向いてください」〈方向Ⅰ〉
7 「赤い自動車が1台，こっちに向かって走ってきます」〈方向Ⅱ〉
8 「あっちに見えるのがサンシャインビルです」〈方向Ⅲ〉
9 「あっちがその気なら，こっちにも考えがある」〈対比Ⅰ〉
10 「こっちの本よりそっちの本の方がおもしろそうだ」〈対比Ⅱ〉
11 「あの時，あなたに……」〈この時　その時　あの時〉
12 「あの人とは，10年以上の友達です」〈文脈指示のア〉
13 「わたしはその人と結婚していただろう」〈文脈指示のソ〉
14 「この人は，一滴も酒が飲めない」〈文脈指示のコ〉
15 「私は彼の絵を見てその才能に感嘆した」〈所属関係など〉
16 「私も，こんな犬が飼いたいな」〈性質・特徴〉
17 「こう挟んで，こう動かすのです」〈動作・作用の様態〉
18 「ここをこう折ってこうすると，こうなります」〈結果の状態〉
19 「あのときはああ言ったけれど」〈発言・思考の内容〉
20 「こんなにたくさん柿をいただきました」〈程度・量Ⅰ〉
21 「こう暑いと，勉強がはかどりませんね」〈程度・量Ⅱ〉
22 「この結果，A大学の首位は不動のものとなった」〈接続表現Ⅰ〉
23 「それでいて味わいが豊かだ」〈接続表現Ⅱ〉
24 「中国からいらっしゃたのですか」「そうです」〈応答・述語代用〉
25 「あれこれ考えたが，結局決まらなかった」〈慣用表現〉
26 「この3週間，まったく人と話さなかった」〈時間の表現〉
27 「あの人たちは何をしに来ていたんですか」〈単数・複数〉
28 「これほど実態がつかみにくい事件もめずらしい」〈程度・量Ⅲ〉
29 「これだけ自分の作品が売れているのに……」〈程度・量Ⅳ〉
30 「では，こちらをご覧ください」〈こちら　そちら　あちら〉

〔取り入れた部分〕

(1) 現場指示・文脈指示をはじめ，いわゆる指示詞とは何なのかということを理解してもらう場合(ある意味での概念くだき)，日本語学習者対象のセルフマスターシリーズは有効である

と考えた。

(2) 現場指示から文脈指示へ進む際に，コソアがいったいどういう働きをするのかということを生徒に理解させないと（意識して使用させないと）この学習プランの成果はないと考えた。たとえば，正保勇氏「コソアの体系」（『日本語教育指導参考書8　日本語の指示詞』国立国語研究所　1981）によると，

「ソ」……先行文脈や先行談話にのみ基づいて，あるいは，そう装って，指示をする。本来的な文脈指示の用法

「ア」……話し手・聞き手と聞き手・読み手の双方が了解している対象を指示するのが，本来の用法

「コ」……普通ならば，「ソ」で指示されるはずのものを，「コ」で指示している場合には，自分がそれに強い関心を寄せている身近な存在であるという心的態度を，聞き手・読み手に押しつけていることになる。

とある。日本語の指示詞の研究の歴史は，コ・ソ・アがどのように使い分けされるのかということを追求する歴史であったと考え，この学習プランでは，「話し手がどういう領域にいるかと認識することを前提」（談話管理理論と学問的には呼んでいる）とし，それを順序だてて，配列されている『セルフマスターシリーズ4』をプラン作成の中核に据えた。

特に，「コ」「ア」が話し手の位置する領域や気持ちの面で共有する性質があるのだということに注目したいと考えたのである。

(3) そのことと関わって，「こんな」「こういう」という言い方によって，人や物に対する話し手の評価が表されることにより，コ・ソ・アに対する興味関心が出てくるのではないかと考え，〈程度・量〉を取り入れた。

〔あえて取り入れなかった部分〕

(1) 内容的には，現場指示⇨文脈指示へスムーズに進むという手順を，コンパクトに学習プランに反映するということで，16ページ分の学習プランに縮小した。

(2) 共通体験のア，体験指示のソ，普通の文脈はソ，相手の領域のソ，文脈焦点のコ，引用のコという言い方ではなくて，ただ単に「気持ち」「領域」ということに絞って（少々無理をしているが）プラン化した。

(3) 例文については，今まで学習した教材の中から探して，親しみやすくしたつもりではある。ただ，例文が用法的にずれているおそれもあった。

2　指示詞の学習プラン

◎「こ」「そ」「あ」は私たちがふだんなにげなく使っている言葉です。一般に指示詞と呼ばれ，物事を指し示す働きをします。

次の文章を読んでみてください。

1分57秒。ようやく25Mを泳ぎきった時には，2分近い時間がかかってしまっていた。しかし，他の2校からはあらためて拍手が送られる。なかなか止むことのない，最大級の拍手だった。そんななか，ボクのクラスメートは，岡先生に，こんな報告をしていた。「ほら，先生，あそこのオバサンたち，泣いてるよ」その目は，いかにも不思議なものを見るような目だった。先生は，そのことが何よりもうれしかったと言う。この子どもたちは，乙

武をただのクラスメートとしか見ていない。そして，乙武が25Mを泳ぎきったことも，彼らにとっては大したことではなく，自分たちの仲間が自分たちの仲間が自分たちと同じことをしただけという感覚なのだ。

上の文章は乙武洋匡さんの「五体不満足」の一節です。下線部を引いた言葉は私たちがふだんなにげなく使っている言葉ですが，意識していなくても，何かしらの法則性があります。その法則性を見つけて運用できることをこの学習プランで学んでいきます。

Q 1　「こ」「そ」「あ」を頭に持つ指示詞をあげてみましょう。
A 1　「こ」→「　　」「　　」「　　」「　　」「　　」「　　」「　　」
　　「そ」→「　　」「　　」「　　」「　　」「　　」「　　」「　　」
　　「あ」→「　　」「　　」「　　」「　　」「　　」「　　」「　　」

指示詞は，日本語の語いの中でも特に使用頻度の高い，重要な語群です。日本語を今まで以上に高度に使いこなせるためには指示詞の用法の正確な理解が不可欠なのです。

— 1 —

1　現場指示

会話は普通「話し手」と「聞き手」がいると成り立ちます。そこで次の問題を見てください。

Q 2　次の各文で「これ」「それ」「あれ」が指し示すものはどこに存在すると思いますか，図で示してください。

① 「これをください」
② 「それはおいしそうですね」
③ 「あれはなんですか」

話し手　　聞き手

目の前（現場）にあるものを「これ」「それ」「あれ」を使って指し示すことができます。指し示されるものが自分に近いときは「これ」
相手に近いときは「それ」自分からも相手からも遠いときは「あれ」を用います。
また，現場の人やものを指し示すとき「この○○」「その○○」
「あの○○」を用います。

Q 3　場所を指し示すのには「ここ」「そこ」「あそこ」という形を用います。図の中にあるA・B・Cは「ここ」か「そこ」か「あそこ」か考えてみましょう。

(1)　　C（　　）
自分　A（　　）　　相手　B（　　）

(2)　　遠い所
　　C（　　）
　　少し離れた所
　　B（　　）
自分たち
　A（　　）

— 2 —

Q 4　次の会話文の（　　）の中に「こ」「そ」「あ」の指示詞のどれかを入れましょう。
(1)　A「写真を撮りますから（　　）にいてください。」
　　B「（　　）でいいですか。」⇨AがBの写真をとる
(2)「（　　）はステージがよく見えないから（　　）の席に移りましょう。」⇨AとBがいっしょに芝居を見ようとしている。
(3)　A「日本の面積について調べたいのですが。」（本をさがして）
　　B「（　　）に書いてありますよ。」
　　A「じゃあ（　　）をコピーさせてください。」⇨BがAのために本をさがしてきた。

Q 5　（　　）の中の「ここ」「そこ」「あそこ」または「この辺」「その辺」「あの辺」を入れてください。
(1)　電話での会話
「もしもし，いま月形駅にいますが，雨が降ってきたので，かさを持って（　　）まで迎えにきてください。」
「わかりました。10分くらいしたら（　　）に着くと思います。」
(2)「カメラのフィルムがなくなりました。」
　「どこか（　　）の店で売っているでしょう。」
(3)　街の中で，通りがかりの人に尋ねている。
　「（　　）で一番近い本屋はどこにありますか。」

Q 6　下の図で話し手の言うことが正しければ○ちがっていれば×をつけなさい。
(1)　牛はこっちをむいています。
(2)　犬はそっちをむいています。
(3)　こっちをむいている動物は3匹です。
(4)　そっちをむいている動物は2匹です。

（図はここでは省略した）

— 3 —

Q 7　次の文はそれぞれ〈　　〉の中に示した人やものごとを選んだり比べたりする対

象として述べられたものです。(　　)に「こっち」「そっち」「あっち」のうちの適当なものを入れましょう。

(1) 〈a 自分の会社と b 相手の会社〉
(a　　)は最近男子社員の数が減って女子社員の数が増えているんだけど(b　　)はどうかね。

(2) 〈a 自分の住んでいるところと b 相手の住んでいるところと c 会場にいない人物の住んでいるところ〉
佐藤君が昨日の電話で言っていましたが(c　　)の桜はもう満開だそうです。(b　　)はどうですか。(a　　)はやっと咲きはじめたばかりなんですが。

(3) 〈a 自分のはめている指輪と b 相手のはめている指輪〉
(a　　)より(b　　)の方が値段が高そうですね。

(4) くだもの屋の店先で〈a 目の前のあるメロンと b そのすぐ隣に並べてあるメロン〉
(a　　)より(b　　)の方が甘そうですね。

◎ 「こっち」「そっち」「あっち」は視線の方向，移動の方向，物事が存在したり出来事が起こったりする場所の方向を指し示します。

自分に向かう方向→「こっち」
自分から相手に向かう方向，または相手が自分以外の方向を向いているときに相手が向いている方向→「そっち」
それ以外の方向→「あっち」

◎ ものごとが選択・対比の対象になっている場合，自分に属する(または自分の選んだ)ものごとを「こっち」，相手に属する(または相手の選んだ)ものごとを「そっち」，それ以外のものごとを「あっち」で指し示します。

— 4 —

Q 8　現場指示のまとめの問題　下線部の表現が正しければ○をつけ，まちがっているときは正しい形に直しましょう。

(1) 「山田さんの姿を見かけませんねえ。どこへ行ったのかしら。」
「どこかそこへんを散歩しているんでしょう。」(　　)

(2) あそこあたりはむかしはもっと静かでいいところだったんですよ。」(　　)

(3) きのうどこかそこあたりでぶつけたらしくて，けさ起きたら右足のここへんがズキズキ痛むんです。」(　　)(　　)

(4) この箱はここに置いておくと邪魔ですから，そこの方に持って行ってください。(　　)(　　)

(5) (タクシーに乗っていて)「むこうにメガネと書いた看板が見えるでしょう？　あっちで止めてください。」(　　)

(6) いま岡田さんが立っているあっちからこっちまでは何メートルくらいあるでしょう

ね？」（　　）（　　）

(7)「大野くんがここの方に来ませんでしたか？」「ええ，さっきそこの陸橋を渡ってあそこの方へ歩いて行きましたよ。」

（　　）（　　）（　　）

2 文脈指示

「こ」「そ」「あ」によって眼前にない対象を指し示すことがあります。

これを「こ」「そ」「あ」の文脈指示といいます。

Q 9　（　　）の中に，「この時」「その時」「あの時」を入れてください。

(1)（　　）あなたに助けていただいて本当にうれしかったです。

(2) もし1時間たっても熱が下がらなかったら，（　　）また電話してください。

(3) 父は，旅行先で事故にあって，生死の境をさまよった。（　　）

私はまだ母のおなかの中にいた。

(4)「去年ここに来たときも，静かな夜でしたね。」「ええ，（　　）も星がたくさん見えましたね。」

(5)「強盗に襲われたときは，どんな気持ちがしましたか。」「（　　）はこわくて，声も出ませんでした。」

(6) 事故に際しては，（　　）の状況に応じて，適切な処置をとらなければならない。

(7) 相手「きのう，夜道で転んでしまいました。」

自分「頭のけがは（　　）のものですね。」

(8) 清水さんのおかげで，ようやく家に帰り着くことができました。私は（　　）はじめて人の親切のありがたさをしみじみと感じたのです。

— 5 —

◎「あの時」はいつ使うの？

・話し手と聞き手の共通の体験に関する事柄を話し手が述べたり，聞き手と確認しあったりする場合

・独り言の場合や話し手の特定の体験について尋ねられている時

→Q 9 の(1)(4)(5)

・ふつうの文章の中ではほとんど用いられない。

◎「その時」はいつ使うの？

・話し手が聞き手と共通に体験していない出来事について述べる場合

・実際の出来事でなく仮定された出来事を指し示す場合

・予想される未来の出来事を指し示す場合

・一般的な事柄について述べる場合

・相手の発言の中で，自分が共通に体験していない出来事について指し示す場合

→Q 9 の(2)(6)(7)

◎「この時」はいつ使うの？

・話の流れの中で特に相手に注意をひきたい部分
・「その時」を代わりに用いてもよい場合が多い。「その時」を用いるとより客観的で冷静な文章であるような印象を与える。

→Q 9 の(3)(8)

Q 10　次の文の（　　）の中に「あの時」または「その時」を入れなさい。
(1)（　　）は手伝っていただいて，本当にありがとうございました。
(2) スリにあわれたそうですが，（　　）の状況を詳しく説明してください。
(3)（　　）1時間早く帰っていれば，叱られないですんだのになあ。
(4)「昨日は遅くに電話をかけてすみませんでした。」
「君は（　　）酔っ払っていたんじゃないか。」
(5)「もし雨が降ったらどうする？」「（　　）はしょうがないから濡れて帰るさ。」
(6) おしゃれな女の人は，（　　）の気分によってスカーフの色を変えるそうだ。
(7) 良夫は，あと1時間，美都子を待とう，と思った。しかし，（　　）美都子は良夫が待つ駅とは反対の方向に走る急行列車の中にいた。
(8)「これが，ミレーの『種を蒔く人』ですよ。」「ああ，（　　）あなたがおっしゃっていたのは，この絵のことだったんですね。」

— 6 —

向田邦子さんの「父の詫び状」では，「あれ」「あの」が使われています。
① あれはたしか雪の晩であった。
② そんな父が，一回だけ威勢悪くションボリと靴を脱いだことがある。
戦争が激化してぽつぽつ東京空襲が始まろうかという，あれも冬の夜であった。
③ 三，四日して東京へ帰る日が来た。帰る前の晩，一学期分の小遣いを母からもらう。あの朝のこともあるので，少しは多くなっているかと数えてみたが，きまりしか入っていなかった。
宮沢賢治さんの「よだかの星」にも「あの」が使われている箇所があります。
① もっと小さなおしゃべりの鳥などは，いつでもよだかの真っ向から悪口をしました。
「へん。また出てきたね。まあ，あのざまをごらん。本当に鳥の仲間のつらよごしだよ。」
「ね，まあ，あの口の大きいことさ。きっとかえるの親類か何かなんだよ。」

◎「あれ」「あの」はどのような時に使われるか，考えてみましょう。

— 7 —

文脈指示の「あ」で指し示せるのは，会話では，自分と相手とが共通の過去の体験の中

で出会って知っている物事（人・もの・事柄・場所・時間……）であって，2，3の場合を除けば相手がよく知らない物事を「あ」で指し示してはいけないのです。

例　「乙武さんの『五体不満足』を読みましたか？」

「ああ，あれはおもしろかったですね。」

それでは，先に出した「父の詫び状」ではどうでしょう。③は聞き手（読者）がよく知っている事柄を「あの」で指し示しています。ところが，①，②は共通に知っている話題ではなく，話し手（作者）が強く思いを入れた話題だから読者が知らなくても「あれ」を使っています。したがって独り言の場合や，特定の体験について尋ねられたり，強く述べようとする場合は，聞き手（読者）が知らない物事であっても，話し手（作者）が出会って知っている物事でありさえすれば「あ」が用いられるのです。

— 8 —

Q 11　AさんとBさんが田中さんについて話をしています。なぜ田中さんに「あの」をつけていると思いますか？

A「あの田中さんが交通事故を起こしたそうですよ。」

B「ええっ，それは意外ですね。」

なぜでしょう？

Q 12　次の文の下線部が正しければ○，そうでなければ，「そ」の指示詞に改めなさい。

(1)「飼っていらっしゃった犬が見えませんね。」

「あの犬は年をとって先月死んでしまったんですよ。」（　　）

(2)「話は変わりますが，あのパーテイは私が帰ってからどうなりましたか。」

「ああ，先週の新人歓迎パーテイですね。すっかり盛り上がって，夜中の2時まで騒いでいましたよ。」（　　）

(3)「『007』なら，オリオン劇場という映画館でやっていますよ。」

「あまり聞かない名前の映画館ですね。あそこへは，どう行くのですか。」（　　）

(4)　レストランのボーイ「きょうのおすすめ料理は，子牛のヒレ肉ロースト，エストラゴン添えです。」

客「なかなかおいしそうだ。ぜひ，あれをください。」（　　）

— 9 —

次は「五体不満足」の中にある文章です。

子どもたちの心が最もすさむのが中学時代と言われる。友達との人間関係。①これからの進路，そして恋愛。彼らは多くの悩みを抱えている。常に漠然とした不安に襲われ，イライラしている。「勉強しなさい」としか言わない親に，規則で縛るだけの先生。②そのイライ

ラは募るばかりだ。そしてその③矛先は時代を問わず弱者へと向けられていく。最もいじめの多いのもこの④時期だ。

そこ⑤に障害者―社会的弱者と言われる人間が入っていくと，どうなるのだろうか。中学校入学に際して，周囲が最も心配してくれたのは，この⑥点だった。

すでに現れた物事を再び指し示すのに，「そ」または「こ」の指示詞を用います。上の文章でも，「あれ」「あの」と置き換えると文章が何かしら変な具合になります。「あ」を使うとすれば，

① ヤッちゃんも，先生から「乙武にあまりからむな。」と言われていたようだし，ボクも「あいつとはあまり関わるな。」と釘を刺されていた。

② 裏を返せば，「生意気な」存在だったに違いない。正直「あの障害者，ムカつく。」と感じている子もいるだろう。

→「あ」の指示詞は，会話・独り言・個人的な回想のような場合，その場合でも話し手（作者）が何かしら特別な思いを持っているような時に使われるようです。

Q 13 次の文の（　　）の中に，「そ」または「あ」の指示詞を入れなさい。

(1) もし適当な候補者が見つかったら，（　　）人の名前を知らせてほしい。

(2) 「さんまはお好きですか。」「ええ，好きです。（　　）は塩焼きにして大根おろしで食べるとおいしいんですよね。」

(3) この道をあと 10 分も登ると，展望台に出るはずですから，（　　）で休憩しませんか。

(4) 達夫は去年，5 年間付き合っていた女性と別れた。しかし，今でも（　　）女性を愛している。

— 10 —

◎ 会話でも，聞き手の知らない物事を持ち出して，再び指し示したり，相手が持ち出した物事でも，自分がよく知らない場合は「あ」が用いられません。

◎ 「そ」が使われる場合が一般的な事態を表す場合では多いということが言えます。

それでは，「こ」はどうなのでしょうか？

Q 14 「五体不満足」の例文の中にある指示詞①～⑥が何を指し示しているか，考えてみましょう。

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	

Q 15 「そ」と「こ」の使われ方には，何かちがいがあるようです。次の文章をよく見てください。

2～3年前に行われた6年1組の同窓会の席上で，岡先生から言われたことがある。「ヒロがいたおかげで，困っている子がいたら自然に助け合いのできる，優しいクラスに，すばらしいクラスになったんだ。」

①これは，岡先生特有の，ボクに劣等感を感じさせないための優しさだったのかもしれない。だが，まったく的外れなことでもないように思う。保母をしている友人から，②こんな話を聞いたことがある。「③この春から，ダウン症の子を受け持っているの。やはり，最初のうちは子どもたちもビックリして④その子を遠巻きにしていたのだけれど，1～2カ月と経っていくうち⑤にその子を中心としてクラス全体に優しい気持ちが芽生えるようになったの。」

(1) 指示詞①～⑤が何を指しているか考えてみましょう。

①	
②	
③	
④	
⑤	

(2) 「こ」が使われる場合はどんな場合か考えてみましょう。

◎ Q 14，Q 15で「こ」が使われている場合は

→「今，自分が置かれている場所・時」「引用して提示されている文や語句，図」そして話し手（作者）が「聞き手（読者）の注意を引きたいもの」を指し示している場合です。

◎ また，「こ」を用いると，目の前に生き生きと提示するような効果が出るのです。

Q 16 下線部のコを「a：コでもソでもよい」「b：ソやアに置き換えられない」「c：ソまたはアに置き換えなければならない」に分類し，a，b，cで答えなさい。

(1) 人事部に中田さんという人がいますから，この人に紹介状を渡しなさい。（　　）

(2) これは専門家から聞いた話なのですが，実用になるテレビ電話が普及するのにあと5年はかかるそうです。（　　）

(3) 鯛は鱗と内臓を取り，水洗いします。さらにこれを三枚におろしておきます。（　　）

(4) 「少年よ，大志を抱け」これは札幌農学校教頭だったクラークの残した有名な言葉である。（　　）

(5) 診断の結果，しのぶの病気はガンであり，残された命は数年とわかった。しかしこの

ことは，しのぶ本人には知らされなかった。（　　）

(6) あと10分ぐらい走るとドライブインがありますから，ここで休憩しましょう。（　　）

Q 17 （　　）の中に，「この」「その」「あの」のどれかを入れなさい。

(1) 部屋に入ると右の方に机がありますから，（　　）上にこの手紙を置いておいてください。

(2) このカードは会員と（　　）家族しか利用できません。

(3) 私は彼の絵を見て（　　）才能に感嘆した。

(4) 捜査員は犯人のモンタージュ写真を手に，（　　）行方を追い始めた。

— 12 —

（　　）の中には「その」が入ります。すなわち直前の文脈の中に現れた〔人／もの／事柄〕（＝X）と関係のある〔人／もの／事柄〕（＝Y）を指し示す時，Xを繰り返して「XのY」などと言うかわりに「そのY」という形を用いることがあります。Q 17 の(1)を例にとると，

「X＝机」「Y＝上」ということになり，「机の上」と言うかわりに，「その上」と言うのです。

Q 18 次の各文からXおよびYを指摘しなさい。

(1) 人はその身なりで判断してはいけません。　X＝
　　Y＝

(2) ベートーベンの音楽を聞くたびに，その力強い美しさに圧倒されてしまうのです。
　　X＝
　　Y＝

(3) 私はカードを見てその裏に書かれた数字を言い当てることができる。
　　X＝
　　Y＝

(4) 車を見れば，その持ち主の性格はある程度わかる。
　　X＝
　　Y＝

これまで，「こ」「そ」「あ」について，学習を進めてきました。少しはその用法の理解を深めることができましたか？　一応指示詞には，「現場指示」と「文脈指示」の用法があって，さらに話し手（作者）の思い入れの深さや話し手・聞き手がどこにいるかによって使われ方がちがうのだということを意識してください。

私たちが普段なにげなく使っている言葉には，他にもいろいろときまりがありそうですね。いわゆる「文法」と呼ばれるものですが，「文法」というといやな気持ちになる人もい

ることでしょう。しかし，「文法」は皆さんの書く力の向上のためにはとても大切なものなのです。

— 13 —

3　話し手の思い入れについて

次の例文を見てください。(「五体不満足」より)

(1)　ボクの自信はみなぎっていた。これだけ練習しているのだから，本番でもきっと立派に走り切ることができるに違いないと。

(2)　満場の拍手を受けて，6位の旗の所に並ぶ。6位の列に並んでいる子どもたちのなかで，こんなにも満足気な顔をしていたのは，ボクくらいのものだろう。

(3)　こんなワガママで，ムチャクチャな願いを聞き入れてくれ，楽しいクラブ活動の思い出を作れたのもみんなの協力があってこそ。

(4)　彼の男気にますます惚れ込むと同時に，自分自身に諦めを抱いているヤッちゃんが悲しく思えた。そんな彼のもとに人は集まった。

(5)　合格。この電話をもらったのは11時近くだった。発表へ向かう途中に，おしゃべり好きで有名な知人に捕まったらしい。

何もこんな日に，こんな大事な時に遭遇しなくてもいいのに。

(6)　だが，ここから下り坂を転げ落ちるように，点数が急降下していく。無理もない。あれだけ朝から晩までアメフトのことを考えていれば，点数が下がらない方がおかしいだろう。

(7)　しかし，この年のボクの本業は勉強。こんなに遊んでいて，だいじょうぶなのだろうか。

Q 19　①　(3)(4)(5)について，「この」「その」を使うのとどのようなちがいがあるか，考えてみましょう。

②　(1)(2)(6)(7)の傍線を引いた語が修飾している語を指摘し，どんな効果をもたらしているか考えてみましょう。

	修飾している語	効　果
(1)		
(2)		
(6)		
(7)		

— 14 —

◎　「このX」と「こんなX」を比べてみると，「こんなX」の方が良くも悪くも，話し手

がXに対して性質・特徴に対する強い感情的な評価をしているような感じがします。

◎ 「こんなに」「これだけ」「あんなに」「あれだけ」などの指示詞には形容詞を修飾してその性質・状態の程度が大きいことを表したり，動詞を修飾してその動作に関わる量が大きいことを表したり，連用修飾語を修飾してそれが表す様態の程度・量が大きいことを表す用法があります。

4 確認をしてみよう

Q 20 （　　）の中に「この」「その」「あの」のうち，適当なものを入れなさい。

(1) A 来週の日曜日，ピクニックに行きませんか。
B いい考えですね。どこで待ち合わせをしましょうか。
A そうですね。渋谷駅の改札を出ると左にコーヒースタンドがありますから，（　　）前で9時半にどうですか。
B ええ，では日曜に。

(2) A どこかで食事でもしましょうか。
B ええ，おなかもすきましたし……。
A （　　）辺においしいとんかつ屋があるんですよ。そこに行きましょう。
B 何という店ですか。　A 三金っていうんです。
B 三金なら私も知っています。（　　）店のとんかつはなかなかですよね。

(3) A 山本先生が今度雑誌に発表なさった論文，もう読みましたか。
B ええ，昨晩一気に読み上げました。
A （　　）結論どう思いましたか。
B そうですね。今図書館から借りてきた（　　）本の結論とは，だいぶちがいますね。
A そう，でも今度の結論の方が（　　）先生らしいかもしれません。

(4) A 英会話の先生をさがしているんですが，誰かいい人はいませんか。
B 私の友人のアメリカ人で前にも2，3人教えていた人がいますが。
A （　　）人いくつぐらいですか。

(5) A （　　）本はむずかしいですか。
B はい，見たこともない単語ばかりで，さっぱりわかりません。
A じゃあ，（　　）本を読んでみたら。

(6) A きれいな色のセーターですね。よく似合っていますよ。
B ありがとう。色がきれいだし，それにとてもあたたかいので（　　）セーターにしたんです。

(7) A （　　）前，上野駅でばったりだれかに会ったって言ってましたが，あれは誰でしたっけ。
B （　　）時，会った人ねえ。思い出せません。

(8) A （　　）荷物，お持ちしましょうか。
B これですか。軽いからだいじょうぶです。

Q 21　正しいものを○で囲みなさい。

(1)　目薬，1週間分です。（これ・それ・あれ）を1日に4回，忘れずにさしてください。

(2)　A　コピーをしたいんですが，その機械はあいていますか。

B　（これ・それ・あれ）は今，故障しています。図書館の2階にあるコピー機を知っていますか。　A　ええ。

B　（これ・あれ・それ）なら使えるはずです。

(3)　A　明日から3泊4日の予定でスキーに行きます。

B　（これ・それ・あれ）はいいですね。うらやましいなあ。

(4)　A　レポートの締め切りは明日ですね。もう，できましたか。

B　（これ・それ・あれ）がまだ全然まとまっていないんです。

(5)　A　どうも風邪をひいたみたいです。

B　（これ・それ・あれ）なら，この薬を飲んでみるといいですよ。

(6)　A　飯田さん，英語の試験，90点とったそうだよ。

B　（こんなに・そんなに・あんなに）勉強していたんだから，きっといい点数とると思ったね。

Q 22　（　　）の中に「こ」「そ」「あ」を適当な形にして入れなさい。

(1)　ほんの二メートルほど先の海面で，波のひだとともに夜光虫の光に顔をかすかに浮き上がらせた女は，にらむような目をしていた。ああ，と慎一は思った。

彼は（　　）顔を覚えていた。

今日，真っ赤なスポーツカーに一人で乗ってきた女だった。目の大きな，呼吸をのむほど美しいまだ若い女で，同級生の兄は，（　　）は有名な映画女優にちがいないぞと言った。「……あなた，（　　）町の人ね？」女の顔は見えなかった。彼は答えた。「そうです。だから（　　）海には詳しいんです。」

……「他人の夏」より

(2)　その日以来，ボクは自己紹介などで，「特徴・手足がないこと」と書いてきたのを「特長」と書くようになったのを覚えている。―ボクには人に負けないものがある。（　　）は，手足がないこと。―（　　）言葉の意味を理解できる人は，そう多くはないだろう。

……「五体不満足」より

Q 23　次の文は「鼻」（芥川龍之介）の一節です。「その」とちがってどんな印象を与えるか，考えてみてください。

①　池の尾の町の者は，こういう鼻をしている禅智内供のために，内供の俗でないことを幸せだと言った。あの鼻ではだれも妻になる女があるまいと思ったからである。中にはまた，あの鼻だから出家したのだろうと批評する者さえあった。

考えたこと＝

②　内供が人と話しながら，思わずぶらりと下がっている鼻の先をつまんでみて，年甲斐もなく顔を赤めたのは，全くこの不快に動かされての所為である。

考えたこと＝

— 16 —

「指示詞」の授業を終えてのアンケート

「こ」「そ」「あ」の学習を進めてきました。それぞれの指示詞を使う際には，何らかのきまりみたいのがあって，話し手（作者）にそのことを意識しているのだなということを理解してもらいたかったのですが，どうでしょうか。今後の改善に向けて，次のアンケートにこたえてください。

1 「こ」「そ」「あ」の指示語について理解は深まりましたか。

深まった　　かえって混乱した　　深まったかどうかよくわからない

2 その理由を簡単に述べてください。

3 これから自分で作文を書く際に，「こ」「そ」「あ」のちがいを意識すると思いますか。

思う　　思わない　　よくわからない

4 「こ」「そ」「あ」の学習の感想を述べてください。

3 授業記録から見えた学習プランの問題点

○対象　北海道月形高等学校第3学年　国語表現選択者15名（男子6名，女子9名）

○授業期日　平成13年10月から11月にかけて5時間実施（毎時15分程度）
12月6日（木）に確認テスト及び授業アンケート実施

○進度　2または3ページずつ
授業者が最初説明し，学習者が考えながら，課題を進めていくという方式をとっていった。

○展開していくにあたっての実感

(1) 「こ」「そ」「あ」の使い分けにとまどう生徒が各設問で続出した。

(2) 指示詞がどういうものかを理解していなかったと思われる生徒がいた。

第1校時

授業者が1ページを読みながら説明。

授業者「先生が今読んだ所わかった？」
生徒A「先生，指示詞って何？」　授業者「えっ，今まで習ったことなかったの？」
生徒A「ないような気がする」

2ページ　現場指示の説明をする。Q 2 Q 3についてはほぼ理解できていたようだ。
3ページ　Q 4 Q 5についてはこんがらがる生徒が見られた。
Q 6についてはほぼ理解できていたようだ。

第2校時
4ページ　Q 7については，設問に解説が加えられているので，理解は得られたようだ。
5ページ　Q 9については，こんがらがる場面が見られた。
生徒B「先生，別に何を入れても意味が変わらないんじゃないの？」
授業者「ちがうよ，ちゃんと法則があるんだよ。その法則を知るために指示詞について学習しているんだよ。」
生徒B「でも，(7)はあの時でもその時でもいいのではないの？」
授業者「実は使い分けがあるんだということを気づかせるためにこれをやっているんだよ。」

第3校時
6ページ　Q 10の(4)は「その時」「あの時」で迷っている者がいた。「あの時」「その時」「この時」の違いを生徒は説明を受けながら目で追っていたが，理解をしていたかについては自信がない。
7ページ　その関連で「あれ」「あの」がどのような時に使われるかについては，皆ちんぷんかんぷんであったようだ。
8ページ　「あ」で指し示せるのは，自分と相手とが共通の過去の体験の中で出会って知っている物事であるということが，この部分できっちりおさえておきたいのだが，ここでもわかっているのかどうかについてははかりかねた。
9ページ　Q 11については，話し手も聞き手も「田中さん」について知っていること，「田中さんが交通事故を起こすはずがないこと」を指摘できていた。
Q 12の(3)(4)は「そこ」「あそこ」，「あれ」「それ」で迷った生徒がいた。

第4校時
10ページ　「あ」を使う場面の説明については，生徒がこちらの説明を理解したかは不明である。
Q 13については，ほぼ全員理解していた。
11ページ　「そ」が一般的だという説明はややまどろっこしいのではないかという気がした。
Q 14についての，生徒Cとのやりとりは次のようであった。
生徒C「むずかしいし，めんどくさそうだな。」
授業者「文章をちゃんと見ていればわかるぞ。」
生徒C「①は中学時代，②は規則かなあ。③はイライラ，④は中学時代，⑤は

中学時代，⑥はいじめられるのではないかということかな。」
授業者「②についてはちがうな。」
生徒C「勉強，親，いや中学生か。そうだよな。」
Q15は，Q14でいろいろと迷った効果もあって，生徒はスムーズに答えていた。

12ページ　「こ」が使われる場合はどんな場合かと尋ねた問いでは，生徒からは「最近のこと」「目の前のこと」と2通りの答えしか出てこなかった。
Q 16については，指名した生徒は，国語についての理解があると思われた生徒であったが，(1)(4)(6)にまちがいや迷いがあった。
(1)　cソやアに置き換えなければならないとすべきなのを，aコでもアでもよいとしてしまっていた。場面把握に対する勘違いが生じてしまった。
(4)　引用だから，bソやアに置き換えられないのに，aコでもソでもよいを選んでしまった。ソでも可能だという思い違いがあった。
(6)「どうして，ここじゃだめなの？」という疑問が生徒から出た。10分先の場所だということをつかまえられないでいる生徒がいた。(aと選んだ生徒がいた。正解はcである。)
Q 17については，すんなりと「その」と答えられた。

第5校時

13ページ　「XのY」という説明がわかりにくかったのか，Q 18については，最初キョトンとしていた。ただ設問が簡単だったのか，こつをつかむと，(2)以降はスムーズに理解できていた。

14ページ　Q 19①については，指名した生徒は答えるのに苦労していたので，「こんな」と「この」ではどちらが強い言い方だと思うのか？と導きながら進めていった。②については，修飾している語がはずれているから，(連用修飾語について忘れているのではないだろうか) どんな効果をもたらしているかについては，ちんぷんかんぷんであった。だから強い感情的な評価を表しているのだという面に近づくことができないでいた。

第6校時

事前に15ページ以降の確認テストと授業アンケートについては実施することを予告している。生徒が理解しにくかった設問は次の問いである。(後で直接生徒にきいてみた)

Q 20(2)　(この) 辺においしいとんかつ屋があるんですよ，そこに行きましょう。
→「そこ」に引きずられ「その」としてしまう。
(3)　そうですね。今図書館から借りてきた (この) 本の結論とは，だいぶちがいますね。
→「あの」が連続して使われているので，「あの」とこんがらがる。

Q 21(2)　(これ) は今故障しています。図書館の2階にあるコピー機を知っていますか。
→故障しているコピー機は図書館にあると思って，「あれ」としているケースがあった。状況把握が十分にできていない。

Q 22(2)　ボクには人に負けないものがある，(それ) は手足がないこと―(この) 言葉の意

味を理解できる人は，そう多くはないだろう。
→「それ」を「この人」にしてしまうという的外れな解答があった。また，引用の場合は「こ」を使うのに「その」とした生徒もいた。
Q 23はヒントを与えないとまったく答えることができなかった。

4　授業アンケートにおける生徒の声

(1)「こ」「そ」「あ」の指示語について，理解は深まりましたか。

深まった	3名
かえって混乱した	6名
深まったかどうかわからない	6名

(2) その理由を簡単に述べてください。

- 「これ」は近くで「それ」は中間で「あれ」はちょっと遠めのことという意味は深まった気がしない。(男)
- 授業でやった「こ」「そ」「あ」の説明がむずかしくて私自身そんなものいちいち気にして使っていなかったからよけい混乱した。(女)
- 指示語によって次に来る言葉の意味が変わることもあるので，今回の授業でどんな時に「こ」「そ」「あ」を使えばいいのかわかった気がした。(女)
- わかった部分もあったと思うけど，たくさんいろんなのが出てきてよくわかんなくなってきた部分もあった。(女)
- あまり指示詞の使い方が見分けがつかなかったが，この授業で少しは見分け方がわかるようになったと思う。(男)
- 「こ」「そ」「あ」は単に距離で使い分けるものだと思っていたが，他の意味もあって混乱した。(男)
- 答え方はなんとなくわかったが，理由がよくわからないから（男）
- 指示語を意識して選んで使うことはないから（男）
- わかったと言えばわかったのだが，いろいろとやりすぎて頭が混乱してしまったため(女)
- 簡単そうに見える問題でも考えれば考えるほど答えに迷うから（女）
- 「こ」「そ」「あ」それぞれに意味があるから，使い方がわからなくなる。(女)
- 「こ」「そ」「あ」とかって別に学校で教えてもらって覚えるもんじゃなくて自然に身についてくるものだから。授業でむずかしく教えてもらうと混乱する。(女)
- 身近な文章が例となっていたから（女）

(3) これから自分で作文を書く際に，「こ」「そ」「あ」のちがいを意識すると思いますか。

思う	6名
思わない	1名
よくわからない	8名

(4)「こ」「そ」「あ」の学習の感想を述べてください。

- 「これ」「それ」「あれ」を使えば言う人や聞く人がわかりやすくていいなあと思いました。(男)
- むずかしかった（女）

・「こ」「そ」「あ」をなにげなく使用していたが，まちがった使い方をしていた。だから今回勉強をして正しい使い方を学べてよかった。(女)
・あまりやりすぎると混乱してしまうし，プリントばかりであまり楽しくない。(女)
・この勉強はとても役に立った。(男)
・似ている時は本当に似ているけど，似ていない時はすごく簡単だった。(男)
・今までの授業の中で一番よかった。(男)
・混乱はしたけど，「こ」「そ」「あ」を中心とする授業は今まで習ったことがないので不思議な感じがした。(女)
・普段なにげなく使う言葉として「こ」「そ」「あ」はいろいろな意味を持っているんだと知り，少し面白かったです。(女)
・「こ」「そ」「あ」の勉強をしたことによって今まで間違った日本語を使っていたことがよくわかった。(女)
・簡単なことは簡単なんだけど今さらやるような事ではないような気がする。(女)
・身近な文章が例となっていたり問題になっていたのでとてもわかりやすかった。(女)

5　学習プランの改訂にむけて

(1)　授業をとおして浮き彫りになったこと

ア　「こ」「そ」「あ」の使い分けを経験上会得していると思っている生徒にとっては，なぜ学習するのかという動機づけをすることが不十分であった。

イ　現場指示では，話し手・聞き手の距離という点から理解できていたことが，文脈指示では，話し手の「気持ち」「領域」ということにしぼって，法則性なるものを提示したのだが，それでも複雑に感じることが多かったようだ。この学習プランでは現場指示から文脈指示へのスムーズな接続が最大のポイントであったのだが，それが不十分なもので終わってしまった。

(2)　改訂のポイント

このプランでの大きな問題点は，文脈指示に入ったとたんに，とまどいを感じ始めた生徒が出たということである。特に「あ」がどういう場面に使われるかについては，現場指示では話し手からも聞き手からも遠い領域であるのだが，文脈指示では話し手・聞き手が共通の過去の体験の中で出会って知っている物事だということを理論的に（しかもわかりやすく）整理できなかったことに欠陥があったと考える。そこで改訂については，神尾昭雄氏『情報のなわ張り理論』(大修館書店　1990) の助けを借りて，考えていくこととした。

(3)　なわ張り理論を学習プランへいかにとりいれていくか

ア　現場指示（神尾氏は直示的用法と呼んでいる）

『セルフマスターシリーズ 4』におけるとらえ方と同様に「こ」は話し手の領域（なわ張り）「そ」は聞き手の領域（なわ張り）「あ」は両なわ張り外の領域をあらわしているので，現場指示については，今までの学習プランどおりで進める。

イ　文脈指示

神尾氏は「そ」形が文脈指示の中で最も一般的だとされる根拠として次の法則の存在を

示唆している。すなわち

a．話し手は，自分が一旦述べた情報は聞き手の情報のなわ張りに属するものとみなす。 b．聞き手は，話し手が一旦述べた情報は話し手自身のなわ張りに属するものとみなす。

このきわめて自然な日本語の談話法上の原則をもとにして，「こ」「そ」「あ」を整理しなおすと

「こ」→話し手の情報のなわ張り

「そ」→聞き手の情報のなわ張り

「あ」→文脈外の情報，両者のなわ張りの外部

「あ」については，文脈外の記憶された情報を指す。すなわち話し手・聞き手にとって既知ではあるが，話し手がわざわざ記憶から呼びださなければならないから，その意味で遠いととらえることができる。(「あ」については，議論を要するであろう)

ウ　学習プランへのとりいれ

したがって現場指示でも文脈指示でも「こ」「そ」「あ」のとらえ方は，「なわ張り」という視点で図式化できると思われる。そこで，改訂プランでは，現場指示の後に，次のような設問を用意してみてはどうかと考えた。

問　Yさんの会話の中で「その」「あの」「この」のうち，適当なものを選びなさい。 X　僕の友達に山田という人がいるんですが，この男はなかなかの理論家で……。 Y　ああ，(その　あの　この) 人なら，僕もよく知っていますよ。 (あの　その　この) 人はずいぶん議論好きですね。 ◎　なぜYが最初山田を「その人」と呼び，次に「あの人」と呼んだのでしょうか？ (1)　まずXが山田について述べたので，そのXの発言中の「山田」は，Yの立場からは，Xのなわばり内にあるものとみなされる。 (2)「その人」という表現は，その人物についての情報が話し手，すなわちYのなわばりに属さないが，言葉の調子から察すると，Yにとって面識のある人物であるので，山田を記憶しているYは指示表現を「あの人」に変えて表現しなければならない。

「なわ張り」という視点から「こ」「そ」「あ」をよりわかりやすく認識させようという考えで学習プランをくみかえることを検討しているが，具体的にはより深い思索と数多くの実験が必要であると考える。「こ」「そ」「あ」の学習プランについては，まだまだ模索しつつも，子供たちにとってわかりやすいものへと向かうはずだと確信するものである。

〔参　考　文　献〕

市川孝『国語教育のための文章論概説』(教育出版　1978)
林四郎「代名詞が指すもの，その指し方」(水谷静夫編『朝倉日本語新講座5　運用Ⅰ』朝倉書店　1983)
金水敏・木村英樹・田窪行則『日本語セルフマスターシリーズ4　指示詞』(くろしお出版　1989)
正保勇「コソアの体系」(『日本語教育指導参考書8　日本語の指示詞』国立国語研究所　1981)
神尾昭雄『情報のなわ張り理論』(大修館書店　1990)